

春の椿事

望月苑巳

人を省略する息

ひとつ

下駄の音

かなしそうな男が

かなしそうな桜を見上げている

瞳がひらく

凍る時間の外で

未来もかなしそうになる

金縛り

君と僕の醗酵した部屋が

子どもを産んでいる

我田引水な看板が

ふらついている

ひもろび
神籬

いろめく

はしかくし
階隠のこちらがわ

を蹴って出てしまう

のどかに降る雨は

そよめく青空の響に倣って

我が道を行く

君と僕が醗酵を終えて

息を省略

するから

下駄の音

かなしくなる

春の一日は

そこはかとなない椿事

*神籬…神代の神坐。ひるがえって神社をさす